



短い物語 P&D
坂のアリス

環樹涼

目次

坂のアリス	1
作品データ	4

坂のアリス

その公園の近くを通る度、僕はいつも思い出していた。

斜面にあるコンクリートの急な階段。

そこから転げ落ち、側溝にはまった幼い頃の記憶。

仰向けになった滑稽な自分。

落ち葉がクッションになってくれたおかげで怪我は無かった。

泣くこともなかったと思う。

そんな記憶を頭の中で繰り返しながら、僕はその階段とは異なる場所へ向かっていた。

そこはかつて階段だった場所で、今は緩やかなスロープに変わっていた。

少し右にカーブしている。そこを上った先には、昔、動物園のゲートがあったはず。

それは色褪せた記憶だったけれど、これから先も消えそうにない景色だった。

そんな坂を見上げると、小柄な少女が一人、先を歩いていた。

なんとなく見覚えのある青い服。

腰の真ん中辺りに白い生地のリボン。

エプロンドレスというのだろうか。

髪はショートで黒髪だった。

彼女の後ろ姿を見た僕は、古い外国映画を思い浮かべた。

物語の主人公と少女を重ねながら、この場所には似合わないような気もした。

一歩ずつゆっくりと上っている様子は、何となく登山者みたいだった。

僕も急いでいたわけではなかったから、彼女に追い付いてしまうことはなかった。

それでも、お互いの距離は少しだけ縮まった。

すると、彼女は急に立ち止まり、振り返ろうとした。僕はその動きに不意を突かれ、必要ないのについ止まってしまうようになった。

その時だった。

突然、前から風がぶつかって来た。

目を瞑って突風に立ち向かった後、僕の動きは止まった。

その理由は、予期せぬ雨が降ってきたからだ。

坂の両側にはコンクリートの土手が続いていて、その上には桜が植えられていた。

降って来たのは、その花びらだった。
風と一緒に踊った後、力尽きるように地面に落ちた。
花びらを踏まないように注意しながら、僕は再び歩き始めた。
坂を見上げたけれど、すでに少女の姿は無かった。
彼女は、卒業していくあの人に似ていた。
「アリスになってみたいんだよね」
いつだったか、彼女はそう言っていた。



僕は卒業という言葉を抱んだまま、ようやく坂を上り切った。

そして、ひと休みする時間も無く後ろから聞こえてきたのは、遅れていた待ち人の声だった。

その声に押され、少し前に見た光景が坂を転げ落ちるように消え去って行く。

僕は笑顔で振り返った。

坂を上ってくる人がいる。風で乱れた長い髪。

それを気にする仕草を見つめながら、僕は思った。

階段から転げ落ちた日、あの時から長い時間を費やし、今日まで坂道を上って来た。

まだ途中だけど、この辺りで自分も卒業しなくちゃいけないことがある。

そう思いながら、僕は出世城の天守閣を仰いだ。～終わり

作品データ

【話】

■タイトル (Title) : 短い物語 P&D 『坂のアリス』

■作家名 (Artist) : 環樹涼 (RYO KANZYU)

■制作年 : 2018

※物語はブックログのpapierにて電子書籍として配信しています。Kindle・Koboからも配信中！ ※アルバム『Pride and Dust World』(電子書籍)に収録。試し読み作品あります。

※アルバム『Pride and Dust World』(電子書籍)に収録。試し読み作品あります。

~~~~~

### 【画】

■タイトル (Title) : 『坂のアリス』

■作家名 (Artist) : 環樹涼 (RYO KANZYU)

■制作年 : 2013

■画材 : ボールペン、鉛筆、画用紙、スプレー

■作品サイズ : B5 サイズ相当の画用紙を使用。縦 19cm(E 横 14cm の枠内に描画。

■販売価格 : 10,000 円 (税込)

※『短い物語 P&D』を表す絵画は、主にリアル展示による公開です。



---

短い物語P&D『坂のアリス』

---

著 環樹 涼

制 作 Puboo  
発行所 デザインエッグ株式会社

---